

始良市からの転出超過分析

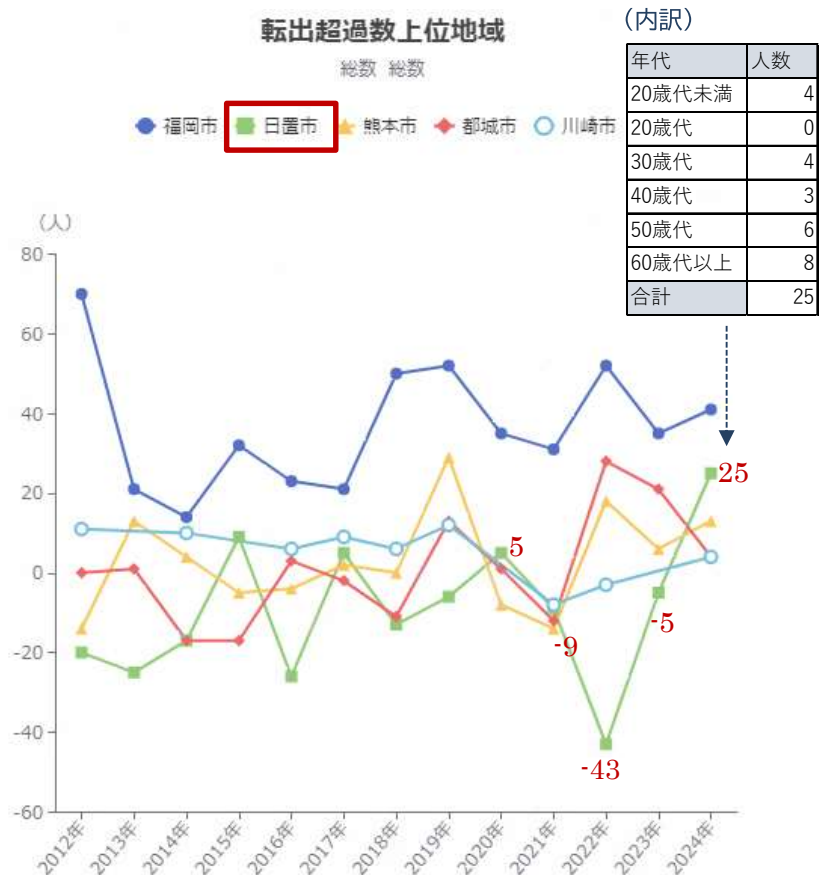
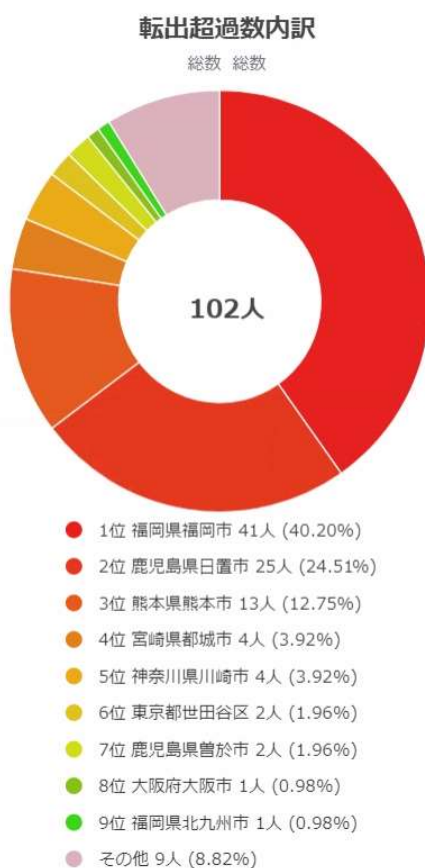
2024 年の転出超過数の内訳をみると、「福岡県福岡市」が 40.20%と最も多く、次いで「鹿児島県日置市」(24.51%)、「熊本県熊本市」(12.75%) の順となっている。

福岡県や熊本県等の他県への転出については、若年層(20 歳代未満~20 歳代)が顕著となっており、進学や進学に伴う転出超過と考えられる。一方、日置市等の県内への転出については、若年層よりも 30 歳代以降、特に 60 歳代以上が多く転出している状況がうかがえる。

日置市への転出が多い要因は一概には言えないが、公務員等の定年退職後の再任用・再就職に伴う転居や伊集院地区を中心に住宅団地や分譲地が増加している影響、日置市において積極的に取り組んでいる本社誘致(2021 年より 11 社の誘致に成功)の影響による居住移動が可能性として考えられる。

しかし、日置市への大きな転出超過は 2024 年のみで、2021 年から 2023 年は転入超過となっているため、一時的な要因によるものと考えられる。

＜2024 年転入超過数及び転出超過数の内訳（再掲）及び経年グラフ＞



資料) RESAS (総務省「住民基本台帳移動報告」)